



この夏、36年ぶりに北海道で全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が開催されました。北海道立図書館では、競技・運営に参加する高校生への応援の気持ちを込めて、大会ポスターや開催地マップのほか、部活動をテーマにした小説や、前回、北海道で開催した昭和62年度大会の記録等を展示しました。（詳細は活動報告1でご紹介します。）

目 次

- ▶ にれ『本を探す』という楽しみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～4
- ▶ 特集「電子図書館 1年を振り返って」・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ▶ 図書館紹介『生涯学習の拠点』と『憩いの場』をめざして・・・・・・・・ 6～7
- ▶ 活動報告1「全国高等学校総合体育大会（インターハイ）PR活動
『応援！北海道総体2023』・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8～9
- ▶ 活動報告2「展示を振り返って」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10～14
- ▶ 活動報告3「連携事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- ▶ 活動報告4「アイヌ文化講演会『物語を通してみるアイヌ語の特徴』」・・ 16
- ▶ 活動報告5「北星学園大学文学部 フィールド実習（地域系）」・・ 17～18
- ▶ 活動報告6「研修事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19～20
- ▶ 令和5年度（2023年度）上半期の事業一覧・・・・・・・・・・・・・・ 21
- ▶ 掲示板・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

に れ

「本を探す」という楽しみ

北海道立図書館長 堀本 厚

このたびの図書館報への原稿作成に当たり、何を書けばいいか少し悩みましたが、利用者様が図書館に来ての楽しみとなり、図書館が好きになるきっかけとなることを期待し、たくさんの中からお目当ての本を探すためのヒントについて書いてみようと思いました。

私が大学で図書館学課程を履修した40年ほど前(1983年頃)は、図書館で本を探す方法は、目録を一枚一枚めぐりながら自ら調べるか、司書に聞くかのどちらかでありました。

今でこそ、北海道立図書館に限らず市町村等の各図書館では独自にコンピュータによる検索システムを導入し、探したい本の名称などのキーワードを入力し検索ボタンを押せば、瞬時に画面に候補の図書名が表示されますが、私の大学時代では、図書館へのコンピュータの導入は、まだまだ進んではおりませんでした。

この文章をお読みの方の中には、「目録」って何? と思っている方もいらっしゃると思います。私の大学時代では、図書館に入ると、まず正面に、本を探すためのカードを保管する小さな引き出しがたくさん格納されたタンスのようなものが鎮座しておりました。

目録は図書を探すためのカードなのですが、その種類としては、図書名が記載された「書名目録」と作者名が記載された「著者目録」が備え付けられていました。このほかにも、どういった内容が書かれた本なのか、といったキーワードを記載した「件名目録」を備えている図書館もあり、大学では「図書館には件名目録を備えておくことが、利用者様にとって重要なことだ」などと教わった記憶があります。その後、1990年代に入り、目録による蔵書管理から、コンピュータを利用した蔵書管理へと時代が変わっていきました。

さて、そういった過去の経緯も踏まえた上で、目録がコンピュータシステムに取って代わった今の時代、図書館に来て、あえてコンピュータにも司書にも頼らずに自力で本を探すにはどうすればいいか、という本題に入りたいと思います。あくまでも、特に借りたい本が決まっておらず、図書館に来てから適当な本を見つけようという利用者様向けのお話です。

「日本十進分類法(通称NDC: Nippon Decimal Classificationの略)」という用語を聞いたことはありますか? これは、日本の図書館で広く使われている図書を分類するための統一的な番号であり、図書を3桁の数字(小数点以下の細目が付されている図書もあります)で分類するものです。

図書館の本の背表紙の下部に貼られているラベルに記入されている数字のことです。

3桁の数字の分類をすべて覚えることは至難の業ですので、利用者様には、まずは百の位の数字が何を意味するのかを覚えるだけでも、本を探すスピードが格段に早くなり、探す楽しみも倍増するものと思います。

NDCでは、百の位を「類」と呼んでいます。以下の表に「類」とそれぞれの分類に含まれる主な図書等の資料を記載しましたので、参照いただければと思います（「もう覚えているよ」という方はおさらいの意味でお付き合いください）。

【表】 NDCにおける「類」の区分表

類	類区分に含まれる主な図書等の資料
0 総記	図書館学、百科事典、逐次刊行物、ジャーナリズム、郷土資料
1 哲学	哲学、心理学、倫理学、道徳、宗教
2 歴史	日本史、世界史、伝記、地理、紀行
3 社会科学	政治、法律、経済、統計、社会、教育、風俗習慣、国防
4 自然科学	数学、物理学、天文学、植物学、動物学、医学、薬学
5 技術	工学、工業、家政学、生活科学
6 産業	農林水産業、商業、運輸、交通、通信
7 芸術	芸術、美術、写真、音楽、演劇、スポーツ、体育、娯楽
8 言語	日本語、世界各国の言語
9 文学	日本文学、世界各国の文学

この表の左の10項目なら覚えられそうですね。表の右の主な図書等の資料はイメージとして捉えていただければと思います。「類」をとりあえず覚えた上で、その中にどのような図書が含まれるのか、それぞれの「類」に含まれる図書の内容をなんとなくイメージできればOKです。図書館に行って（検索システムは使わずに）、自分の探したい本が何の分類に含まれるかをおおよその見当を付けて棚を探してみましょう。ちなみに、北海道立図書館の棚には、それぞれの棚の側板の部分に、NDCの分類表を貼っています。

私の場合、図書館に行って、自分が借りたい本はおおよそ何の分類に属するのかを見当付けて棚を探し、棚にある背表紙を見て、本を手に取り、表紙や目次を見て、直感で本を借りてみるということをよくします。検索システムも便利なのですが、検索システムで事前に予備知識を持って本を探すよりも、棚に置かれている本の背表紙を見てから初めて本を選ぶ、というのも面白いと思って

います。思いもよらない新しい本との出会いです。

例えば、私の趣味が写真撮影ということもあり、カメラ関係の本や写真集を時々借りるのですが、図書館に行って、写真関係はどここの分類に当てはまるのか、写真は展覧会などが行われているからおそらく芸術の部類かな、などと思いながら7の棚を探し、棚には分類表が貼ってありますので、写真は分類番号では740なのか、などと確認しながら、本を一冊一冊手に取って面白そうな本を選んでいきます。一種の探検のような気分です（一人図書館検索ツアーと勝手に言っています）本探しを楽しんでいます。



北海道立図書館では、利用者様が直接手に取って探することができる開架図書として、2階の閲覧室と、渡り廊下で繋がっている開架書庫を合わせて約21万冊の図書資料を御用意しています。道立図書館に来ましたら、はじめに閲覧室を見て回り、次に開架書庫を見て回り、北海道関係の図書であれば北方資料室に行ってみて、お目当ての本がなければ、ようやくここで検索システムの力を借りて候補となる本に当たりを付けて、閲覧室や開架書庫になく閉架書庫にあるようでしたら、カウンターの職員に声をかけて持ってきてもらう、という一連のルーティーンをこなせば、もう立派な図書館ヘビーユーザーとして認定です（認定証はありませんが）。



道立図書館の閲覧室の様子です

もちろん、最初から検索システムを利用するのも、図書館職員に探したい本を聞くのもOKです。むしろ、どんどん利用してください。今回のお話の趣旨は、本探しを自力で行う楽しさをお伝えしたいと思って書いていますので、コンピュータという文明の利器や職員への問い合わせをしてはだ

めだ、ということではけしてありませんので、誤解のないようお願いいたします。

このように書いている私も、およそ40年前に司書の資格は取得しましたが、就職して以来、図書館に勤務した経験はこの4月から初めてであり、この間一度も図書館や司書に関わる仕事をしておきませんので、司書として勉強していたNDCなどの知識はすべて忘却の彼方に飛んでおりました。ただ、せっかくの図書館勤務ということで司書気分を味わいたいと思いカウンターに時々入っていますが、単純な作業を除いては、まだまだ見習いにも至っていないのが現状です。ですので、優秀なスタッフがカウンターにおりますので、お困りの際は是非そちらにお問い合わせください。

最後に、この図書館報をお読みの皆さんには、是非とも道立図書館に限らずお近くの図書館に足をお運びいただき、前記した一人（でなくてもいいのですが）図書館検索ツアーにチャレンジして、新しい本との出会いを楽しんでいただきたいと思います。最近の子どもたちは本離れが進んでいるといった指摘もありますが、大人の方も同様のことが言えると思います。図書館に来れば、自分の好きなジャンルの本だけでなく、普段読んだことのない新しいジャンルの本にも出会うことができます。さらに、読書は、たくさんの言葉に触れ、表現力も知らず知らずのうちに身に付き、想像力もたくましくなり、そして日々の生活をより豊かなものにしてくれる「いいとこ取り」の行動であると思っています。お近くの市町村立図書館にない本でも、道立図書館にお探しの本があればお貸しすることも可能です。道立図書館の利用者登録（道民の方であればどなたでも可能です）をしていただければ、道立図書館に来なくても、インターネットでの本の予約やスマートフォンなどで読むことができる電子書籍の利用も可能となりますので、利用登録がお済みでない方は是非ご検討ください。

一方、広く図書館を利用していただくためには、私どもも図書館の魅力をこれまで以上に発信していかななくてはならないと思っています。

「図書館をもっと身近に暮らしの中に」を目指して、今後とも、道民の皆様が親しまれる図書館づくりに努めてまいります。

電子図書館 1年を振り返って

2022年4月に約3,000点の資料数でスタートした北海道立図書館電子図書館は2023年3月に約3,800点の資料が追加となり、現在は6,849点の資料を電子図書館サービス「KinoDen」内で閲覧することができます。

当館WEBサイト及びKinoDenトップページでは毎月の月間アクセスランキングも公開しており、利用者の皆様の興味関心とその移り変わりを知ることができます。

また、KinoDenトップページでは当館職員がおすすめテーマに沿った資料を定期的に更新しており、2023年7月は夏季休暇の時期に合わせて旅行ガイドブックを表示しています。



電子書籍月間アクセスランキング (6月)		
2023年(令和5年)6月に多く読まれた電子書籍(KinoDen)を紹介します。		
6月の電子書籍アクセスランキング		
1	中学校英単語・熟語2000	東京書籍株式会社 出版事業部/【編】 東京書籍 2019.4
2	月10万円より豊かに暮らす ミニマリスト整理術	ミニマリストTakeru/著 クロスメディア・パブリッシング 2020.11
3	るるる北海道 '24	JTBパブリッシング/著 JTBパブリッシング 2023.2
4	100万回シェアされるコピー	樋口幸生/著 誠文堂新光社 2017.4
5	マンガまるわかり 著作権	齋藤理央/【著】 motto/【漫画】 新星出版社 2021.1
6	鳥が好きすぎて、すみません	細川博昭/著 誠文堂新光社 2018.10
7	1週間だけパスポートの基礎が学べる本	渡辺はつき/著 インプレス 2021.7



さらに、今年度から大学、高等学校からの郵送による一括利用登録の受け付けを開始し、拓殖大学北海道短期大学、北海道岩見沢東高等学校で学生・生徒、教職員の利用登録を行いました。そのほかの大学図書館、市町村立図書館などでの一括利用登録・出張利用登録会の実施も検討し、徐々に利用を広げていきます。

今後も、まだ電子図書館サービスを体験されていない道民の皆様への広報に努めてまいりますので、学習の場面だけでなく、趣味や生活にもたくさんお役立ていただけることを期待しています。

(一般資料サービス課)

『生涯学習の拠点』と『憩いの場』をめざして

古平町図書館 館長 本間 克昭

古平町図書館は『生涯学習の拠点』としての場であるとともに、気兼ねなく足を運べる『憩いの場』をコンセプトとして昨年5月6日にオープンし、地域の住民に広範な知識と交流の場を提供しています。開館から1年が経ち、読書や調べもの、学習の場として利用されています。



当館は、古平町複合施設かなえーの2階にあります。そのため、複合施設設置条例の一部として古平町図書館の規定を設けています。以前は図書室だったものをそのまま図書室とするのか、それとも今回の開館にあわせ図書館法に基づく公立図書館とするか否かは内部で議論となりましたが、北海道立図書館の方の勧めもあり後者としました。また、開館前には町民の声を反映するために希望図書の種類や図書館の利用目的等のアンケート調査を行い、可能な限り地域の声を取り込んでいます。

館内の内装は、大きな窓から入る光と木でできた書架や床、イカ釣り漁船を参考とした照明で温かみがあります。窓際のロッキングチェアの設置によりリラックスできるスペースや、靴を脱いで本を楽しむキッズスペースなど、読書に没頭するための場所を提供しています。また、壁に埋め込まれている町の子どもたちが描いたPコンアートは図書館を明

るく彩り、来館者を笑顔にしてくれます。

図書館では、利用者の方に新しい本や知らないジャンル、いつもは手に取らない本との出会いがあるように、定期的におはなし会や展示書架の更新を行っています。そのほかに、住民の意見を反映する雑誌総選挙なども実施し、図書館の蔵書には地域の多様な要望が反映されています。これらの活動により、様々な地域の方の関心を集めています。



当館は、今後も『生涯学習の拠点』としての場であるとともに、気兼ねなく足を運べる『憩いの場』として発展していく予定です。その1つとして、今まで図書館に来たことが

ない方にとっての来館のきっかけとすべくボードゲームを配置したり、秋の読書月間等に合わせてイベントも予定しています。読書、ひいては図書館という施設に対する垣根を低くするために、他市町村で執り行われていることを参考とさせていただきながら、古平町としての特色ある図書館にしていきたいと考えてい



ます。

古平町図書館は、学びや交流の場としてますます重要な存在となっていくために、基本コンセプトを大切にしつつ、住民の意見を取り入れながら変わりゆく時代に合わせて変化し続けていく図書館でありたいと考えています。本や雑誌の閲覧、貸出・返却という役割だけでなく、自然と足を運びたいと思える場所づくりにこれからも励んでまいります。

全国高等学校総合体育大会（インターハイ）PR活動 「応援！北海道総体2023」

この夏、36年ぶりに北海道で開催される全国高等学校総合体育大会（インターハイ）について広く周知し大会開催の気運を高めるため、高校生への応援の気持ちを込めて、5月23日（火）～8月20日（日）までの間、館内展示等によるPR活動を行いました。

【多目的室】

多目的室では、各競技の開催地が分かるパネルや大会ポスター等のほか、江別市で開催される2競技（ホッケー・水泳）について、競技ポスターと北海道江別高等学校の生徒が作成した原画とを並べて展示しました。また、館内3箇所に全競技のポスターを掲示しました。高校生などが描いたこれらの作品は、どれも競技の魅力を存分に引き出しており、その迫力に目を奪われる利用者の方々も多く見られました。



【一般資料閲覧室】

一般資料閲覧室では、「応援！北海道総体2023～部活小説あつめました」と題して、競技・運営に参加する高校生への応援の気持ちを込めて、「運動部が舞台の小説」をあつめて展示しました。



【北方資料閲覧室】

北方資料閲覧室では、昭和62年（1987年）大会の資料を展示しました。

昭和62年大会終了後、大会実行委員会が収集・作成した資料は当館に寄贈され、特別コレクション「昭和62年度全国高等学校総合体育大会資料」として保存されています。

今回はこの特別コレクションの中から、約50点を展示しました。展示された大会ポスターや写真、生徒の作成した大会速報からは、多くの生徒や関係者によって作られた大会だったことが伝わってきます。



今回、この活動は当館の全ての職員が気持ちを合わせて取り組んできました。高校生の熱い夏を少しでも後押しできたとしたら、喜ばしい限りです。

(管理課・一般資料サービス課・北方資料サービス課)

展示を振り返って

【一般資料閲覧室】

○「3月8日は国際女性デー」

期間：2月1日（水）～3月30日（木）

国連によって定められた3月8日の「国際女性デー」に合わせ、女性をとりまく歴史や社会状況、ジェンダーについて学ぶことのできるもの、女性たちをエンパワメントするものなど、評伝、文学、児童書など様々な分野から関連図書を集めて展示しました。



○「本で旅する」

期間：4月1日（土）～5月30日（火）

5月16日は、松尾芭蕉が奥の細道に旅立った日として「旅の日」に制定されました。それにちなみ、国内外の旅行ガイドや世界各地の写真集、旅にまつわるエッセイなど、旅行気分を味わえるような本を集めました。



○「環境月間」

期間：6月1日（木）～6月29日（木）

環境省では6月を「環境月間」として様々な取組を実施しており、それに合わせて当館でも環境に関する資料展示を行いました。温暖化による海面上昇や気候変動、食資源や食品ロス、海洋プラスチックごみ、エネルギー問題、人々の消費行動など、様々な環境問題について絵本・児童書を含め、入門的に知る資料を集めました。



○「植物観察とボタニカルアート」

期間：6月1日（木）～7月27日（木）

写真がない時代に図鑑の挿絵として描かれ、それが美術品としても注目され、独自のアートとして発展してきたボタニカルアート。この展示ではボタニカルアートを知る、描く、楽しむための本のほか、連続テレビ小説「らんまん」のモデルとして注目を集めている「日本の植物学の父」牧野富太郎に関する本を紹介しました。



○「北海道青少年のための200冊（小学生の部）」

期間：7月1日（土）～8月20日（日）

（公財）北海道青少年育成協会が毎年選定している「北海道青少年のための200冊」の中から当館で所蔵している「小学生の部」の本を展示しました。

北海道青少年育成協会から提供いただいた図書目録と「ほーほーくん」のしおりの配布のほか、当館も参加している北海道日本ハムファイターズ読書促進全道キャンペーンの紹介も行いました。



【ビジネスコーナー】

○「ビジネスコーナーPickUp！」

令和4年から2階ビジネスコーナー内に「ビジネスコーナーPickUp！」と題したミニ展示を展開しています。

期間ごとにテーマを設定し、ビジネスシーンで役立つ、さまざまな本をご紹介。4月から6月は「アイデアはどこからやってくる」をテーマに20冊の本を展示、7月から8月は「学び直そうビジネススキル」のテーマで関連資料21冊を展示しました。



【えほんコーナー】

○「ほんとうにあったおはなし」

期間：3月8日（水）～4月27日（木）

世の中を大きく変える発見・発明をした人、逆境でも自分の夢や目標を見失わなかった人といった実在の人物の伝記や、心温まる出会いや驚きのエピソードなどの過去に実際にあった出来事を絵本で伝える作品をあつめた展示を行いました。



○「さわってひらいて！しかけ絵本展」

期間：4月23日（日）～5月12日（金）

昭和34年（1959年）に「子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所を」との願いから誕生した「こどもの読書週間」は、子どもの読書への関心の高まりを受けて、2000年の「子ども読書年」以降、現在の4月23日～5月12日の期間になりました。



「こどもの読書週間」の期間中、えほんコーナー内に特設テーブルを設置して、55冊のしかけ絵本の展示を行いました。

○「コドモが主役！」

期間：4月29日（土）～6月29日（木）

子どもにとって世界は初めて出会う知らないことばかり。家の周りや学校等の日常生活から空想的な世界の冒険まで、子ども達が主人公の絵本を200冊展示しました。



○「絵本のおばけやしき」

期間：7月1日（土）～8月30日（水）

1825年（文政8年）に四代目鶴屋南北作の歌舞伎『東海道四谷怪談』が、初めて公演されたことに由来して制定された7月26日の「幽霊の日」にちなみ、ちょっと怖くて、でもどこか可愛らしい、オバケや幽霊、妖怪などが登場する絵本173冊を、集めて展示しました。



（一般資料サービス課）

【一般資料閲覧室北方資料展示コーナー】

○「北海道のかるた」

期間：1月4日（水）～4月27日（木）

当館が所蔵する北海道に関するかるたから、郷土かるた16点を4回に分けて展示しました。

郷土かるたは、そのまちの歴史や自然、施設、風習などを題材として取り札（絵札）と読み札が作られており、遊びを通じてそのまちを知ることができるため、北方資料室では資料として収集・保存しています。今回展示



したかるたの中には、住民から取り札（絵札）と読み札を募集したものもあり、1枚1枚が味わいのあるものとなっています。

展示期間中にかるたを寄贈してくださる方もおり、図書や雑誌と違った普段見ることの少ない資料をご覧いただく機会となりました。

○「旅のおともに パンフレット資料にみる北海道」

期間：4月29日（土）～7月27日（木）

北方資料室では、近世以降の文書類からベストセラー小説、観光パンフレットなど分野を問わず、さまざまな資料を収集しています。

今回の展示はコロナ禍の移動制限が緩和されたことから、“旅”をテーマに取り上げ、普段は書庫内に大切に収納しているパンフレット資料をご覧いただくことにしました。また、



それぞれの時代の息吹が感じられる華やかなデザインの資料をなるべく多く展示するため、会期を戦前編、戦後編、アラカルト編の三期に分けて資料を入れ替え、戦前の樺太旅行から、戦後の観光ブームをけん引した国立公園旅行、食やエコといった細分化される現在のニーズに対応した各種のツーリズムのパンフレットなどを華やかに紹介しました。

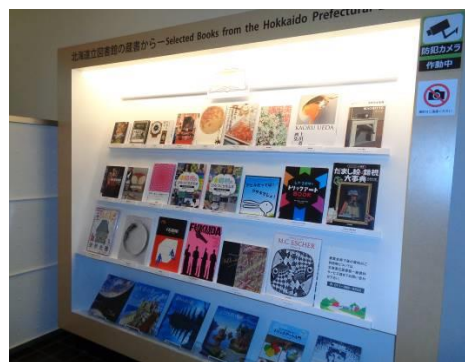
（北方資料サービス課）

連携事業

【道立図書館・道立近代美術館連携展示】

道立図書館・道立近代美術館相互の利用者サービスの向上を図るため、近代美術館で開催する展覧会に併せて、平成30年度から美術館内の特設コーナーで当館の蔵書を紹介しています。

特別展「サンリオ展 ニッポンの可愛い文化60年史」(2月11日(土)～4月2日(日))では、60年を迎えたサンリオの歴史やキャラクターに関する資料を、特別展「トリック×イリュージョン！」(4月22日(土)～6月11日(日))では、トリックアート、だまし絵に関する資料を特別展会場出口に展示し、子どもから大人まで幅広い世代の方々にご覧いただきました。



【道議会図書室・道立図書館連携展示】

連携事業の一つとして、北海道議会図書室で収集した新着図書に関連した内容の本を当館所蔵資料から毎月10冊ほど選択して展示貸出しを行う「新着図書+プラス」コーナーを、議会図書室内に設けています。議会図書室の新着図書コーナーと同じ書架に置いてあるので、一般の利用者にも分かりやすくなっています。



新着図書+コーナー4月分(写真中段)



新着図書+コーナー7月分(写真中段)

(一般資料サービス課)

アイヌ文化講演会「物語を通してみるアイヌ語の特徴」

■日 時：7月22日（土） 14：00～15：30

■会 場：北海道立図書館研修室

■参加人数：21名

■内 容

国立アイヌ民族博物館から小林美紀研究員を講師に迎え、今からちょうど100年前に出版された知里幸恵『アイヌ神謡集』などのアイヌの物語を手掛かりに、アイヌ語をテーマに講演会を開催しました。

本講演会は、道立図書館所蔵の北海道指定有形文化財、「知里幸恵ノート」を国立アイヌ民族博物館で展示しているという経緯から、アイヌ文化を専門とされている同博物館の方々に広くお話ししていただき、多くの皆さんがより一層アイヌ文化に親しむ契機とすることを目的としています。



4年目を迎える今回は、アイヌ語の文法について取り上げ、アイヌ語の基礎から動詞の構造などについてまで、わかりやすく解説していただきました。特に音声や筆録からの書き取りの体験は、アイヌ語の音声資料をウェブ公開している機関の紹介とともに、強く参加者の興味を引きました。さらに、ニンショウセツジ（人称接辞）や自動詞・他動詞の区別など、単語に分解しながらの説明や、逆にいくつもの単語がつながって一つの意味を成す単語になるなど、複雑な仕組みもあることを教わり、アイヌ語のおもしろさを感じる内容の濃い90分となりました。

また、講演会の関連事業として、8月6日（日）まで「アイヌの昔話 そしてアイヌ語をもっと！深く知るための図書」と題し、ミニ資料展示を行いました。講演会の前後に立ち寄った方はもちろん、他の多くの来館者にもアイヌ語の世界を楽しんでいただきました。（北方資料サービス課）

北星学園大学文学部 フィールド実習（地域系）

道立図書館と教育機関との連携のひとつとして、北星学園大学のフィールド実習を受け入れています。「北星学園大学文学部 心理・応用コミュニケーション学科」を代表する特徴的な授業の一つで、当館との連携は今年で5年目となります。教室や図書館の中で得た知識を現場（フィールド）で実際に活用し、本当に自分のものにするを目的としており、実習先の活動内容によって大きく「産業系」「野外系」「教育系」「地域系」の4つに分かれています。道立図書館は「地域系」の実習先の一つで、4月から始まる前期日程を3期に分けて学生が活動します（下表「今年度の活動日程」参照）。カウンター業務や資料の受入・整理のほか、おはなし会で使用する資料の整備など、図書館の業務体験を通じて学んだことをベースに、活動の最後には図書館をPRする広報物の作成や、子ども向けイベントの準備・運営などに取り組みます。令和2年度からはコロナ禍による影響もありましたが、オンデマンドや現地での活動を併用しながら継続し、双方にとって得るところがある実習となっています。

■受入人数（令和元年度～5年度）

R 1	10名	R 2	12名	R 3	9名	R 4	12名	R 5	12名
-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----

■今年度の活動日程

	時 期	活 動	内 容	活動時間
I	5月	オリエンテーション	業務説明等を行うほか、館内を見学し、実際に図書館が利用されている様子について理解を深める。	6時間
II	5月～7月	図書館業務体験	配付資料により各課の業務について理解を深めた後、図書館業務の補助を行い、図書館の仕事を体験する。	23時間
III	7月～9月	①図書館のPR（動画またはパンフレット作成） ②イベント企画準備・運営	①道立図書館の利活用について、PRする動画またはパンフレットを作成。 ②子ども向けの「おはなし会」イベントの企画準備・運営。	51時間以上

【参考】北星学園大学HP (<https://www.hokusei.ac.jp/psycom/curriculum/index.html>)



子ども向け館内案内動画 (R 1)



図書館業務体験 (R 2)



パンフレット作品の館内掲示 (R 3)



おはなし会の企画・運営 (R 4)



オリエンテーション (R 5)

(企画支援課)

研修事業

【令和5年度（2023年度）全道図書館新任職員研修会】

図書館活動に必要な基本理念の理解及び基礎知識の習得を図ることを目的として、道内公立図書館、公民館図書室、学校等に勤務して1年未満の職員を対象に開催しています。

今年度は当館の研修室で対面での情報交換等も行い、参加者同士が活発に交流することができました。

■期 日：6月8日（木）～9日（金）

■会 場：北海道立図書館研修室

■参加人数：40名

■日 程：

【1日目】

講義「公立図書館概論」 北海道立図書館一般資料室長 工藤 嘉一

講義「資料の選択と収集」 置戸町立図書館業務係長（司書） 森田 はるみ

情報交換「こんなときどうしてる？図書館の仕事」 幕別町図書館司書補 西川 美羽

北海道立図書館企画支援課主任 宮本 浩



【2日目】

講義「著作権法 入門編」 北海道立図書館一般資料室資料整備課主任 原田 英明

講義「児童サービス～気負わず、無理せず、はじめの一步！～」

新十津川町図書館司書 高宮 みず恵

講義「カウンター的心得」 斜里町立図書館奉仕係主事 瀧川 さおり

講義・施設見学「道立図書館活用術」

北海道立図書館一般資料室一般資料サービス課主任 木村 啓

北方資料室北方資料サービス課主査 山本 真紀

■事後アンケートから

- ・日々のカウンター業務について、知識を深めることができました。利用者様の目線に立ち、気持ちよく図書館を利用して頂けるような環境づくりを行っていきたい。
- ・それぞれの図書館の課題が見つかり、図書館員どうしのネットワークが広がったと感じた。
- ・手遊びを体験したり、パネルシアターを実際に見ることができ、自分が子どもの立場になって学ぶこともできる講義だと感じた。

【令和5年度（2023年度）全道図書館中堅職員研修会】

図書館運営・企画能力の向上、変化する利用者ニーズに対応できるスキルの習得を図ることを目的として、道内公立図書館、公民館図書室、学校等に勤務して3年以上の職員を対象に開催しています。

「住民との協働で築く図書館サービス」をテーマに、講義や市町村の実践事例、グループワークなどを通して、図書館運営に関する企画力など、中堅職員としてのスキルの向上を図りました。普段、交流が少ない図書館職員と意見交換ができたとの声もあり、有意義な研修となりました。



■期 日：7月6日（木）～7日（金）

■会 場：北海道立図書館研修室

■参加人数：32名

■日 程：

【1日目】

「ボランティアと手を携える図書館活動」 根室市図書館長 松崎 誉

「図書館を舞台に地域おこし」 上士幌町図書館生涯学習推進員（司書） 橋本 香奈代

豊浦町中央公民館図書室地域おこし協力隊 木村 美朝

【2日目】

「我がまち」に無くてはならない「モノ」～地域社会を持続させていくために、図書館が
できること～ 北海学園大学経済学部教授 内田 和浩

「協働で広げる学びの場」 北海道教育庁社会教育課主査 伊藤 嘉奈子

情報交換「ウチの図書館パワーアップのヒント」
北海道立図書館企画支援課主任 宮本 浩

演習（グループワーク）「住民との協働で行う我がまちの図書館活動を考える」
アドバイザー：北海学園大学経済学部教授 内田 和浩

進行：北海道立図書館企画支援課主任 宮本 浩

■事後アンケートから

- ・地域おこしで図書室の整備、人を呼ぶ工夫が細かく考えられていて勉強になった。
- ・自分自身では思いつかなかったアイデアが他の人から出てきていたので、もっと視野を広げていかなければいけないと思った。
- ・普段交流することのない遠い地域の方々と交流することができ、とても刺激されたと同時にどこの館もそれぞれ独自の取組や企画があり、また地域課題もあると感じる時間となった。

（企画支援課）

令和5年度(2023年度)上半期の事業一覧

No.	事業名	開催日	開催場所	概要	参加人数
1	令和5年度北海道図書館振興協議会第1回理事会・総会	4月21日(金)	札幌市 (札幌市中央図書館)	北海道図書館振興協議会理事会、総会及び講話	45名
2	北海道立図書館・北海道立近代美術館連携事業	①4月22日(土) ～6月11日(日) ②9月16日(土) ～11月12日(日)	札幌市 (北海道立近代美術館)	相互の利用者サービスの向上を図るため、道立近代美術館で開催する展覧会に連動し、特設コーナーを設けて道立図書館の蔵書を紹介する。 ①「トリック×イリュージョン!展 ～北海道立図書館の蔵書から」 ②「足立美術館所蔵近代日本画と北大路魯山人展 ～北海道立図書館の蔵書から」	-
3	全道図書館新任職員研修会	6月8日(木) ～9日(金)	北海道立図書館	道内の図書館等勤務1年未満の職員を対象とした、新任職員向け研修	40名
4	全道図書館中堅職員研修会	7月6日(木) ～7日(金)	北海道立図書館	道内の図書館等勤務3年以上の職員を対象とした、中堅職員向け研修 テーマ「住民との協働で築く図書館サービス」	32名
5	令和5年度北海道読書推進運動協議会総会	7月13日(木)	札幌市 (かでる2・7)	令和4年度報告、令和5年度計画など	6名
6	アイヌ文化講演会「物語を通してみるアイヌ語の特徴」	7月22日(土)	北海道立図書館	知里幸恵『アイヌ神謡集』などのアイヌの物語を手がかりとしたアイヌ語についての講演会	21名
7	北海道立図書館・北海道立文書館連携事業「『ゴールデンカムイ』を(もう一度)読む前に見る展示」	7月29日(土) ～10月29日(日)	北海道立図書館	道立文書館との連携展示。漫画『ゴールデンカムイ』(野田サトル//著、集英社)に関連する、「アイヌ」、「箱館戦争」、「第七師団」などのテーマで両施設の所蔵資料を展示	-
8	令和5年度第1回北海道立図書館協議会	8月3日(木)	北海道立図書館	令和4年度業務実績報告など	21名
9	図書館たんけん! こども書庫ツアー2023	8月11日(金・祝)	北海道立図書館	普段は入ることのできない書庫や事務スペースを巡りながら、図書館の理解を深める。	14名
10	道議会図書室・道立図書館連携展示事業	毎月、道議会図書室の新着図書を紹介と合わせて実施	札幌市 (北海道議会図書室)	道議会図書室で毎月購入する新着図書に関連する分野の道立図書館所蔵資料を「新着図書+(プラス)コーナー」として展示	-
11	講演会 資料で語る北海道の歴史 第24回 「北海道の選挙と政党(1928-1946)-戦前・戦中・戦後-」	9月2日(土)	北海道立図書館	昭和戦前、戦中期に活躍した小樽の衆議院議員・山本厚三を中心に、北海道の政党と選挙の歴史を学ぶ講演会	17名

掲 示 板

<職員人事異動>

退 職 令和5年3月31日付け

館 長 川 端 雄 一
利用サービス部長 伊 藤 信 彦

転 出 令和5年4月1日付け

主 査（総括） 飯 沼 恭 子（道立教育研究所総務部事業課長へ）
管 理 課 主 事 戸 田 愛 美（紋別養護学校ひまわり学園分校事務職員へ）

転 入 令和5年4月1日付け

館 長 堀 本 厚（学校教育局長から）
主 査（総括） 及 川 直 之（教職員局教職員事務課主査から）
管 理 課 主 事 西 山 澄 香（新採用）

再任用 令和5年4月1日付け

資料整備課主任 原 田 英 明
資料整備課主任 加 藤 ひろみ

転 出 令和5年6月1日付け

北方資料サービス課企画主幹 工 藤 尚 子（石狩振興局総務課職員・財産係長へ）

※ 紙面の都合により本文中の敬称を省略させていただきました。

北海道立図書館報 第215号

令和5年（2023年）9月29日発行

北海道立図書館長 堀 本 厚

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL：011-386-8521（代 表）

ダイヤルイン

386-8531（総務企画部）

386-8522（一般資料室）

386-8523（北方資料室）

FAX：011-386-6906

E-mail：support@library.pref.hokkaido.jp

ホームページ：https://www.library.pref.hokkaido.jp